

【審議事項】

四万十川条例に係る
令和 9 年度目標指標について

1 目標指標とは（四万十川条例第36条）

目標指標：条例の目的の達成状況を把握し、進行管理を行うための指標（現状数値、目標数値、目標年度及び調査方法）

四万十川の将来像

- ①水量が豊かで、かつ、清流が保たれていること
- ②天然の水生動植物が豊富に生息し、生育していること
- ③河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されていること
- ④人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されていること
- ⑤季節ごとの優れた景観を有していること
- ⑥住民の安全かつ快適な生活が保たれていること
- ⑦川がこどもの遊びの場として活用されていること
- ⑧川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること
- ⑨流域内又は流域外との地域間交流が活発に行われているとともに、その活動が、住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと
- ⑩情報通信網が整備され、その活用が図られていること

○目標指標年度

（今回設定するもの）

平成19年度 ▶ 平成24年度 ▶ 平成29年度 ▶ 令和4年度 ▶ **令和9年度目標指標** ▶ 令和14年度目標指標

※5年に1回見直し

※令和9年度時点での達成を目指す目標を設定し、進行管理を行う。

【参考：令和4年度目標指標】

目標指標54項目 { 生態系及び景観の保全 18項目
生活・文化・歴史の豊かさの確保 36項目

○検討にあたっての考慮事項

「四万十川条例の将来像に沿った指標であること」「継続して数値の収集ができること（事業廃止や今後実施の見込みがないこと）」
「公開可能なデータであること」「他の計画等と整合が取れること」「内容によっては目標値を設定しないこと（継続的な数値把握が目標）」

2 令和9年度目標指標の見直しについて

○第31回高知県四万十川流域保全振興委員会（R6.11.26開催）での主な意見

- ・目標達成に向けて誰がどのように取り組むのか、役割分担を示すと良い。
- ・指標の評価に必要な指標、基準、方法を可能な限り示すと良い。
- ・流域市町村の目標設定が可能なものは流域の状況に合わせた目標を設定できると良い。
- ・これまで定点観測していた指標については引き続き数値を把握していくと良い。
- ・重点的な指標をいくつか決めて取り組むと良い。

第31回振興委員会での意見を踏まえて、目標値の設定を行う指標項目について取組主体等の情報を追記



令和9年度目標指標案 { 生態系及び景観の保全 14項目
54項目 → 24項目 { 生活・文化・歴史の豊かさの確保 10項目

○令和9年度目標指標の考え方

- ・指標項目を「①推移把握項目」、「②目標指標項目」、「③重点取組項目」の3パターンに分けて管理を行う。
- ・役割を終えたと思われる項目や継続的なデータ収集が困難であるものを削除する。
- ・目標値の設定が可能な項目については、可能な限り目標値を設定したうえで、取組主体や取組内容を明記し、役割分担等を明確にする。

【令和9年度目標指標の見直しの詳細及びスケジュールについては別紙のとおり】

四万十川条例に係る令和9年度目標指標について（別紙）○見直しの方向性・項目案

◆指標項目を大きく3パターンに分けて管理を行う。

① 推移把握項目 60項目 ⇒一部非公表（四万十川流域保全振興委員会で推移を把握）
現状指標項目のうち、役割を果たした等の理由により削除するものを除き、推移を把握するための項目として引き続き数値把握を行う。

② 目標指標項目 24項目 ⇒公表（HP等で一般に公表）

①のうち、目標値が設定されているもの、新たに設定するものについて、「目標指標」とし、目標達成に向けた取組・取組主体を明確にする。

③ 重点取組項目 3項目 ⇒公表（HP等で一般に公表）

②のうち、3項目程度を5年間の重点取組項目として設定し、5年に一度の指標見直しのタイミングを目途に重点取組項目を再設定する。

【重点取組項目案】

○四万十川一斉清掃の参加者数

○川で遊んだ子どもの割合

○流域住民1人あたりの1日のゴミの量

県・市町を取組主体とし、
具体的に取り組みやすい項目を選定

○スケジュール

7月 第32回高知県四万十川流域保全振興委員会での審議

8月 最終とりまとめ（関係機関との調整）

9月 目標指標確定・公表

10月 数値照会（R5、R6分）

↓ 照会期間：約2ヶ月

12月 数値とりまとめ

→第33回高知県四万十川流域保全振興委員会で数値の共有（R8年度）

〈参考：令和14年度目標指標について〉

R8年度：高知県四万十川流域保全振興委員会で見直しに向けた意見聴取

→令和14年度目標指標（素案）作成

R9年度：高知県四万十川流域保全振興委員会で見直し素案を提示

→R10年度の審議に向けた委員会での意見交換

R10年度：高知県四万十川流域保全振興委員会で審議・目標指標確定

→R11年度第一四半期から数値照会開始

令和9年度目標指標における重点項目の概要

【重点1】四万十川一斉清掃の参加者数

○目標値：3,300人以上（流域5市町の合計）

各市町の
目標値

四万十市：1,050人
 中土佐町：70人
 梶原町：250人
 津野町：330人
 四万十町：1,600人

各市町の直近3～6年間の参加者数（実績）から平均値を目標値として設定。少子高齢化等により参加者の確保が難しくなる状況であるが、現在の参加者数を維持し、本取組を継続していくことを目標とする。

【目標達成のための取組】

各市町における啓発及び継続的な参加者確保のための実施手法の検討

↓

- ・各市町の実施内容（方法）等の共有、優良事例の実践
- ・SNS等を用いた情報発信の実践

市町間の情報共有の
機会を創出

【重点2】川で遊んだ子どもの割合

○目標値：60%以上

県内の他の1級河川における、川で遊んだ子どもの割合と比較して、高い数値を残している状況であるが、学校での環境学習等以外で自主的に川で遊んでいる子どもの数は減っているものと思われる。R4年度末時点での直近5年間では、60%を下回った年もあったため、60%を基準として維持していくことを目標とする。

【目標達成のための取組】

川にふれ合う行事の実施の充実・広報、安全・安心で楽しい水辺活動の機会創出、学校等での環境学習実施への支援等

↓

- ・学校等での環境学習実施支援
- ・安全対策を含めた川での活動の担い手育成

【重点3】流域住民1人当たりの1日のゴミの量

○目標値：849g以下

第5期高知県廃棄物処理計画における、一般廃棄物の減量化目標10%減（R2推計値とR2目標値を比較）をもとに、849g以下に削減することを目標とする。

【目標達成のための取組】

流域住民のゴミ減量化意識の向上、リサイクル率向上に向けた施策

↓

- ・各市町における啓発の充実
- ・流域エリアでの数値把握の検討（現在は市町内全域）

市町間の情報共有の
機会を創出

テーマ	四万十川の将来像 (条例第4条)	令和9年度目標指標項目		目標値	目標値達成のために必要と思われる取組 / 【取組の実施主体】	取組の実施例	指標項目提供主体
生態系及び景観の保全	(1)四万十川の水量が豊かで、かつ、清流が保たれていること (2)四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育していること (3)四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されていること (4)流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されていること (5)季節ごとの優れた景観を有していること	1	清流基準の達成度 ①清流度	各地点 1.0m以上、流域全体平均 7.1m	・森林政策(山の保水力回復、生物多様性確保等) ※事業予算の確保と担い手育成 例: 間伐、針広混交林拡大(落葉広葉樹植林)、協働の森づくり事業による整備、シカ食害対策、希少植物保護対策等 【実施主体】 四国森林管理局、県林業部署、県環境部署、流域市町、森林組合、森林ボランティア等 ・河川整備・管理政策(豊かな流量の維持、生物多様性確保等) ※事業予算の確保と関係者間の連携 例: 利水・治水・環境のバランスを考慮した河川改修工事、流量調整(ダム管理)、生物の生息・成育・繁殖環境の保全・創出等 【実施主体】 河川管理者(四国地方整備局、県土木部署)、ダム管理事業者、漁協関係者等 ・排水污水处理対策 ※事業予算の確保と事業者や市民への啓発 例: 事業系排水対策、生活排水対策(污水处理人口普及率の向上、水切りネット活用の推奨等)等 【実施主体】 流域市町、事業者、各家庭、県環境部署、県土木部署等	○各実施主体による個別施策の実行 ・県及び市町村森林整備計画、森林経営管理制度、第5期高知県第二種特定鳥獣管理計画、河川整備計画、市町村景観計画、四万十川環境配慮指針、重点地域における許可制度等の適正な運用 ○ 流域をあげて取組を推進するための活動(情報共有、情報発信) ①県が行う活動 ・清流モニタリング結果の公表(各種会議や流域フォーラム等での情報共有) ・各実施主体の取組の紹介(各種会議やワークショップ等での情報共有) ②流域市町が行う活動 ・関係市町、各分野の関係者、住民等が参加し情報交換する場の創出(勉強会、ワークショップ等)	県衛生環境研究所
		2	清流基準の達成度 ②水生生物	流域全体平均 1.3ランク以下			
		3	清流基準の達成度 ③窒素	流域全体平均 0.35mg/L以下			
		4	清流基準の達成度 ④りん	流域全体平均 0.015mg/L以下			
		5	生活排水の浄化率(污水处理人口普及率)	83%以上			県公園上下水道課
		6	四万十川一斉清掃の参加者数	3,300人以上	・各市町における啓発及び継続的な参加者確保のための実施手法の検討 【実施主体】 流域市町、四万十川総合保全機構、流域住民、事業者等	○ 四万十川総合保全機構の幹事会等において、各市町の実施内容の共有、優良事例の実践 ○ SNS等を用いた情報発信の実施	流域市町
		7	四万十川における河床高の状況	—	・調査地点の検討、設定、予算確保、実施 【実施主体】 国、県、高知県四万十川流域保全振興委員会等	○ 河川環境保全部会等と連携した調査地点等の検討・設定、予算確保・調査実施	県
		8	魚類・底生生物の確認種数	魚類71種、底生生物236種 (現状確認種数維持)	・調査地点や川上の環境保全策(森林政策、河川整備・管理政策、排水污水处理対策)の実施 【実施主体】 国、県、流域市町、流域住民、事業者等	○各実施主体による個別施策の実行	河川水辺の国勢調査
		9	除・間伐の面積	毎年1,000ha以上	・計画的な造林補助事業及び治山事業等の実施 【実施主体】 四国森林管理局、県林業部署、流域市町、森林組合、森林ボランティア等	○各実施主体による個別施策の実行	県木材増産推進課
		10	混交林の面積(単年値)	—	・計画的な造林補助事業及び治山事業等を実施する中で、水土保全林(保全型)に区分された森林内での強度間伐の実施 【実施主体】 四国森林管理局、県林業部署、流域市町、森林組合等	○各実施主体による個別施策の実行	県木材増産推進課
		11	環境先進企業との官民協働の環境保全 ①協働の森づくり事業における協定件数	14件以上	・環境先進企業と地域とが協働した「森林の再生」と「交流の促進」を柱とした取組の実施 ※取組の情報発信の強化と呼応 【実施主体】 県、環境先進企業、流域市町、森林組合等	○ 既存協定企業及び関係団体との円滑な連携の継続 ○ 県における取組の情報発信の強化(四万十川流域での取組の見える化など)	県林業環境政策課
		12	②協働の川づくり事業における協定件数	2件以上	・環境先進企業と地域とが協働した「川の環境保全活動」の実施 【実施主体】 県、環境先進企業、流域市町、環境保全団体等	○ 既存協定企業及び関係団体との円滑な連携の継続 ○ 県における取組の情報発信の強化(首都圏でのPRなど)	県自然共生課
		13	③公益財団法人四万十川財団への寄付件数	4件以上	・四万十川の公益的事業を実施している四万十川財団に寄附金を集める手法等の検討・実施 ※取組の情報発信の強化と呼応 【実施主体】 四万十川財団、環境先進企業、四万十川総合保全機構、県等	○ 既存寄附企業及び関係団体との円滑な連携の継続 ○ 四万十川財団及び流域行政による情報発信の強化(寄附獲得に向けた活動の推進)	(公財)四万十川財団
		14	有害鳥獣の捕獲数	ニホンジカ:7,000頭以上	・第5期高知県第二種特定鳥獣(ニホンジカ)管理計画に基づく取組の推進 ※事業予算の確保と担い手育成、関係団体等と連携した個体数管理 【実施主体】 国、県、流域市町、猟友会等	○ 各実施主体による個別施策の実行	県中山間地域対策課
生活・文化・歴史の豊かさの確保	(6)住民の安全かつ快適な生活が保たれていること (7)四万十川がこどもの遊びの場として活用されていること (8)四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること (9)流域内又は流域外との地域間交流が活発に行われているとともに、その活動が、住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと (10)情報通信網が整備され、その活用が図られていること	1	川で遊んだ子どもの割合	60%以上	・川にふれ合う行事の実施の充実・広報、安全・安心で楽しい水辺活動の機会創出、学校等での環境学習実施への支援等 【実施主体】 四万十川財団や地元の漁協関係者、国、県、流域市町等(あらゆる主体が連携・協力)	○ 各実施主体による安全・安心で楽しい水辺活動の企画・実施等の継続 ○ 各実施主体による学校等での環境学習実施への支援の継続 ○ 四万十川財団による川の活動を支援する人材の育成と機会の提供	流域の小学校、中学校
		2	川で魚やエビなどを捕ったことのある子どもの割合	40%以上			
		3	水生生物調査実施校の割合	50%以上			
		4	四万十リバーマスター及び生物多様性こうち戦略推進リーダーの人数	100人以上	・四万十リバーマスター及び生物多様性こうち戦略推進リーダーの養成及び活動機会の創出 【実施主体】 四万十川財団、四万十川総合保全機構、県、流域住民等	○ 四万十川財団による人材育成や機会の提供につながる事業の継続実施	(公財)四万十川財団、県自然共生課
		5	四万十川(自然、景観、文化)を活用したイベント等の入込客	137千人以上	・魅力ある企画の立案・実施と呼応 【実施主体】 流域市町、各団体・事業者等	○ 流域市町や観光事業者等による個別施策の実行	流域市町
		6	伝統祭事の実施状況	50件以上 (現状維持)	・伝統祭事の担い手の確保や地域支援等 ※伝統祭事に関わる人材の育成、助成、人的支援、情報発信等 【実施主体】 流域市町、集落活動支援センター、県、流域住民等	○ 流域市町や住民等による取組の継続	流域市町
		7	シンボルの伝統家屋等	17件 (現状維持)	・保存・維持にかかる予算の確保、担い手確保、情報発信等 【実施主体】 流域市町、流域団体、流域住民、県等	○ 流域市町や住民等による取組の継続	流域市町
		8	適正に管理保存された沈下橋数	48橋 (現状維持)	・保存・維持にかかる予算の確保、情報発信等 【実施主体】 流域市町、流域団体、流域住民、県等	○ 沈下橋保存方針等を参考とした流域市町等による管理の継続	県自然共生課
		9	伝統漁具の保存・継承状況	192点 (現状維持)	・保存・維持にかかる予算の確保、情報発信等 【実施主体】 高知県歴史民俗資料館等	○ 高知県歴史民俗資料館による適正管理や四万十川財団における情報発信	県歴史民俗資料館
		10	ゴミの排出状況 ①流域住民1人当たりの1日のゴミの量	849g以下	・R4目標未達成地域(四万十市、中土佐町、四万十町)の住民への啓発の強化と呼応 【実施主体】 流域市町、流域住民等	○ 県や流域市町の条例所管部署や環境部署の集まる場において、各地域のごみの取扱い状況やリサイクル率、住民への啓発手法、課題を共有し、対策を検討し、目標未達成地域を中心に目標を定め、啓発していく ○ 流域市町において、流域エリアでの数値把握を検討・実施(現状は、流域市町全域)	県環境対策課、流域市町

四万十川条例に係る指標項目(案)及び令和9年度目標指標【24項目】(案)

テーマ	四万十川の将来像 (条例第4条)	推移把握項目 ※推移をみていく指標		指標項目のうち 令和9年度目標指標項目(○) / 目標値			目標値達成のために必要と思われる取組 / 【取組の実施主体】
生態系及び景観の保全	(1)四万十川の水量が豊かで、かつ、清流が保たれていること	1	清流基準の達成度 ①清流度	1	○	各地点 1.0m以上、流域全体平均 7.1m	・森林政策(山の保水力回復、生物多様性確保等) ※事業予算の確保と担い手育成 例: 間伐、針広混交林拡大(落葉広葉樹植林)、協働の森づくり事業による整備、シカ食害対策、希少植物保護対策等 【実施主体】 四国森林管理局、県林業部署、県環境部署、流域市町、森林組合、森林ボランティア等
		2	清流基準の達成度 ②水生生物	2	○	流域全体平均 1.3ランク以下	
	(2)四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育していること	3	清流基準の達成度 ③窒素	3	○	流域全体平均 0.35mg/L以下	・河川整備・管理政策(豊かな流量の維持、生物多様性確保等) ※事業予算の確保と関係者間の連携 例: 利水・治水・環境のバランスを考慮した河川改修工事、流量調整(ダム管理)、生物の生息・成育・繁殖環境の保全・創出等 【実施主体】 河川管理者(四国地方整備局、県土木部署)、ダム管理事業者、漁協関係者等
		4	清流基準の達成度 ④りん	4	○	流域全体平均 0.015mg/L以下	
	(3)四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されていること	5	生活排水の浄化率(污水处理人口普及率)	5	○	83%以上	・排水污水处理対策 ※事業予算の確保と事業者や市民への啓発 例: 事業系排水対策、生活排水対策(污水处理人口普及率の向上、水切りネット活用の推奨等)等 【実施主体】 流域市町、事業者、各家庭、県環境部署、県土木部署等
	(4)流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されていること	6	四万十川一斉清掃の参加者数	6	○	3,300人以上	・各市町における啓発及び継続的な参加者確保のための実施手法の検討 【実施主体】 流域市町、四万十川総合保全機構、流域住民、事業者等
		7	水切り袋の普及率				
	(5)季節ごとの優れた景観を有していること	8	環境に配慮した砂防・治山ダム数				
		9	四万十川(具同・大正)における流況				
		10	四万十川における河床高の状況	7	○	—	・調査地点の検討、設定、予算確保、実施 【実施主体】 国、県、高知県四万十川流域保全振興委員会等
		11	魚類・底生生物の確認種数	8	○	魚類71種、底生生物236種 (現状確認種数維持)	・調査地点や川上の環境保全策(森林政策、河川整備・管理政策、排水污水处理対策)の実施 【実施主体】 国、県、流域市町、流域住民、事業者等
		12	森林認証の認証状況 ①森林管理協議会、緑の循環認証会議の認証団体数				
		13	②森林管理協議会、緑の循環認証会議の認証森林面積				
		14	環境保全型農業の実施状況 ①化学肥料等に頼らない事業者数				
		15	②農業低減に取り組んでいる栽培面積				
		16	リサイクル肥料の年間生産状況(単年値)				
		17	荒廃農地の面積				
		18	除・間伐の面積	9	○	毎年1,000ha以上	・計画的な造林補助事業及び治山事業等の実施 【実施主体】 四国森林管理局、県林業部署、流域市町、森林組合、森林ボランティア等
		19	混交林の面積(単年値)	10	○	—	・計画的な造林補助事業及び治山事業等を実施する中で、水土保全林(保全型)に区分された森林内での強度間伐の実施 【実施主体】 四国森林管理局、県林業部署、流域市町、森林組合等
		20	環境先進企業との官民協働の環境保全 ①協働の森づくり事業における協定件数	11	○	14件以上	・環境先進企業と地域とが協働した「森林の再生」と「交流の促進」を柱とした取組の実施 ※取組の情報発信の強化と呼応 【実施主体】 県、環境先進企業、流域市町、森林組合等
		21	②協働の川づくり事業における協定件数	12	○	2件以上	・環境先進企業と地域とが協働した「川の環境保全活動」の実施 ※取組の情報発信の強化と呼応 【実施主体】 県、環境先進企業、流域市町、環境保全団体等
		22	③公益財団法人四万十川財団への寄付件数	13	○	4件以上	・四万十川の公益的事業を実施している四万十川財団に寄附金を集める手法等の検討・実施 ※取組の情報発信の強化と呼応 【実施主体】 四万十川財団、環境先進企業、四万十川総合保全機構、県等
		23	有害鳥獣の捕獲数	14	○	ニホンジカ:7,000頭以上	・第5期高知県第二種特定鳥獣(ニホンジカ)管理計画に基づく取組の推進 ※事業予算の確保と担い手育成、関係団体等と連携した個体数管理 【実施主体】 国、県、流域市町、猟友会等
生活・文化・歴史の豊かさの確保	(6)住民の安全かつ快適な生活が保たれていること		情報通信網の普及率 ①インターネットの普及率		⊖	45%	項目削除:日本社会において、一般に普及しているため。(携帯電話の普及によりインターネットの使用が可能)
			②携帯電話の普及率		⊖	88.5%	項目削除:日本社会において、一般に普及しているため。
	(7)四万十川がこどもの遊びの場として活用されていること	24	生活満足度				
		25	ネットワーク道路の安全・快適度 ①道路改良率				
	(8)四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること		—②道路情報板等の整備状況				項目削除:ネットワーク道路の安全・快適度は「道路改良率」で把握することとする。
			—③交通事故の年間発生件数				項目削除:ネットワーク道路の安全・快適度は「道路改良率」で把握することとする。
	(9)流域内又は流域外との地域間交流が活発に行われているとともに、その活動が、住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと	26	地元高卒者の地元就職率				
	(10)情報通信網が整備され、その活用が図られていること	27	子どもの人数				
		28	川で遊んだ子どもの割合	15	○	60%以上	・川にふれ合う行事の実施の充実・広報、安全・安心で楽しい水辺活動の機会創出、学校等での環境学習実施への支援等 【実施主体】 四万十川財団や地元の漁協関係者、国、県、流域市町等(あらゆる主体が連携・協力)
		29	カヌー、SUP等を体験した子どもの割合				
		30	川で魚やエビなどを捕ったことのある子どもの割合	16	○	40%以上	・川にふれ合う行事の実施の充実・広報、安全・安心で楽しい水辺活動の機会創出、学校等での環境学習実施への支援等 【実施主体】 四万十川財団や地元の漁協関係者、国、県、流域市町等(あらゆる主体が連携・協力)
			子どもが自由に魚を釣れる場所数				項目削除:平成14年度以降全区間となっているため。

テーマ	四万十川の将来像 (条例第4条)	指標項目（推移をみていくもの）		指標項目のうち 令和9年度目標指標項目(○) ／ 目標値			目標値達成のために必要と思われる取組 ／ 【取組の実施主体】		
生活・文化・歴史の豊かさの確保	(6)住民の安全かつ快適な生活が保たれていること	31	水生生物調査実施校の割合	17	○	50%以上	・川にふれ合う行事の実施の充実・広報、安全・安心で楽しい水辺活動の機会創出、学校等での環境学習実施への支援等 【実施主体】 四万十川財団や地元の漁協関係者、国、県、流域市町等(あらゆる主体が連携・協力)		
		32	水質調査実施校の割合						
	(7)四万十川がこどもの遊びの場として活用されていること	33	自然体験型修学旅行の実施校数		⊖	30校	目標削除:目標達成に向けた取組主体の設定が困難であるため。		
		34	農家民宿の軒数(単年値)						
	(8)四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること		四万十ブランド認証の認証件数				項目削除:事業廃止のため。		
		35	地産の状況(単年度) ①農協直売販売所等における地元農産物の販売額						
	(9)流域内又は流域外との地域間交流が活発に行われているとともに、その活動が、住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと	36	②入漁券(日釣券)の販売額						
		37	漁獲量(単年度)						
	(10)情報通信網が整備され、その活用が図られていること		公共事業における木材の利用状況 ―①県有施設の木造化及び内装の木質化率		⊖	木造化率:100% 木質化率:50%	項目削除:安定して目標を達成しており、公共事業における木材利用意識の定着が明確であるため。		
			―②公共土木工事での木材利用量		⊖	12㎡/億円	項目削除:上記項目の削除理由に加えて、公共工事の発注量により年度差があるため。		
		38	環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数(累計値)						
		39	グリーンツーリズムの交流人口						
		40	四万十リバーマスター及び生物多様性こうち戦略推進リーダーの人数	18	○	100人以上	・四万十リバーマスター及び生物多様性こうち戦略推進リーダーの養成及び活動機会の創出 【実施主体】 四万十川財団、四万十川総合保全機構、県、流域住民等		
		41	四万十川(自然、景観、文化)を活用したイベント等の入込客	19	○	137千人以上	・魅力ある企画の立案・実施と呼応 【実施主体】 流域市町、各団体・事業者等		
		42	流域の自然等を生かした観光(学習)施設等の利用者数						
		43	流域の道の駅等の利用者数						
		44	流域の人口						
		45	県外からの移住者数						
		46	伝統祭事の実施状況	20	○	50件以上（現状維持）	・伝統祭事の担い手の確保や地域支援等 ※伝統祭事に関わる人材の育成、助成、人的支援、情報発信等 【実施主体】 流域市町、集落活動支援センター、県、流域住民等		
		47	伝統漁法の実施状況 ①伝統漁法の許可件数(実績件数)						
		48	②船大工の人数						
		49	③川漁師の人数						
		50	博物館・資料館の入場者数						
		51	シンボリック伝統家屋等	21	○	17件（現状維持）	・保存・維持にかかる予算の確保、担い手確保、情報発信等 【実施主体】 流域市町、流域団体、流域住民、県等		
		52	適正に管理保存された沈下橋数	22	○	48橋（現状維持）	・保存・維持にかかる予算の確保、担い手確保、情報発信等 【実施主体】 流域市町、流域団体、流域住民、県等		
		53	伝統漁具の保存・継承状況	23	○	192点（現状維持）	・保存・維持にかかる予算の確保、情報発信等 【実施主体】 高知県歴史民俗資料館等		
		54	有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数						
		55	重要文化的景観選定地区における重要構成要素の箇所数						
		56	文化財等の活用状況						
		57	エコカー(低公害車)の保有台数						
		58	ゴミの排出状況 ①流域住民1人当たりの1日のゴミの量	重点	24	○	849g以下	・R4目標未達成地域(旧中村市、旧窪川町、旧大野見村)の住民への啓発の強化と呼応 【実施主体】 流域市町、流域住民等	
		59	②ゴミのリサイクル率						
			生ゴミのたい肥化への取組状況(コンポスト容器等の普及率)				項目削除:住民のリサイクル意識の観点で、「ゴミのリサイクル率」と項目の目的が重複するため。		
			レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取組状況				項目削除:レジ袋有料化が義務化されたため。		
		60	個人用住宅における再生可能エネルギー設備の設置率						

令和4年度目標指標【54項目】

注)「流域市町」とは、四万十川流域のうち、四万十川条例第2条第4項で定める四万十市、中土佐町、檮原町、津野町、四万十町をいう。

住民が主体となる項目【２６項目】		行政が主体となる項目【２８項目】	
１ 生態系及び景観の保全　：　本来、自然が持つ機能を十分に生かしながら、多様な生態系や景観を重視した四万十川の保全を図る。【１８項目】			
（１）　四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること。【１０項目】			
①清流基準の達成度（清流度、水生生物） ②生活排水の浄化率（污水处理人口普及率） ③四万十川一斉清掃の参加率 ④水切り袋の普及率		①清流基準の達成度（窒素、りん） ②生活排水の浄化率（污水处理人口普及率） ③環境に配慮した砂防・治山ダム数 ④四万十川（具同・大正）における流況 ⑤四万十川における河床高の状況 ⑥四万十川における魚類・底生動物の確認種数	
（２）　森林、農地及び草地が適切に管理され、環境に配慮した経営が行われていること。【８項目】			
①森林認証の認証状況（認証団体数、認証面積） ②環境保全型農業の実施状況（化学肥料等に頼らない事業者数、農薬低減等に取り組んでいる栽培面積） ③リサイクル肥料の年間生産状況 ④耕作放棄地の面積		①除・間伐の面積 ②混交林の面積 ③環境先進企業との官民協働の環境保全（協働の森づくり、川づくり事業等の協定締結件数） ④有害鳥獣の捕獲数	
２ 生活・文化・歴史の豊かさの確保　：　流域の人々の生活・文化・歴史の豊かさの確保と流域を訪れる人々が感じる魅力の向上に努める。【３６項目】			
（１）　住民の安全かつ快適な生活が保たれていること。【５項目】			
①情報通信網の普及率（インターネット、携帯電話） ②生活満足度		①ネットワーク道路の安全・快適度（道路改良率、道路情報板等の整備状況、交通事故の発生件数） ②地元中高卒者の地元就職率 ③流域市町の子どもの人数	
（２）　四万十川がこどもの遊び場として活用されていること。【７項目】			
①川で遊んだ子どもの割合 ②カヌー、SUP等を体験したことのある子どもの割合 ③川で魚やエビなどを捕ったことのある子どもの割合		①こどもが自由に魚を釣れる場所数 ②水生生物調査の実施校の割合 ③水質調査の実施校の割合 ④自然体験型修学旅行の実施校数	
（３）　四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること。【５項目】			
①農家民宿等の軒数 ②四万十ブランド認証の認証件数 ③地産の状況（地元農産物の販売額、入漁券（日釣券）の販売額）		①漁獲量（アユ、ウナギ、アオノリ、テナガエビ） ②公共事業における木材の利用状況（県有施設の木造化及び内装の木質化率、公共工事での木材利用量）	
（４）　地域間交流が活発に行われていること。また、その活動が住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと。【５項目】			
①環境保全に取り組むＮＰＯ・ボランティアの団体数 ②グリーンツーリズムの交流人口		①環境活動リーダー・インタープリター等の人数 ②交流人口の状況（イベント等の入込客数、観光施設等の利用者数、道の駅等の利用者数） ③流域市町の人口（流域市町の人口、県外から流域市町への移住者数）	
（５）　文化・歴史を保全活用していること。【９項目】			
①伝統祭事の実施状況 ②伝統漁法の実施状況（許可件数、舟大工の人数、川漁師の人数） ③博物館・資料館の入場者数 ④シンボルの伝統家屋等		①適正に管理保存された沈下橋数 ②伝統漁具の保存 ③有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数 ④重要文化的景観選定地区における重要構成要素の箇所数 ⑤文化財等の活用状況	
（６）　環境に負荷をかけないライフスタイルが保たれていること。【５項目】			
①エコカー（低公害車）の保有台数 ②ゴミの排出状況（住民１人当たりのゴミの量、ゴミのリサイクル率） ③生ゴミのたい肥化への取組状況 ④レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取組		①新エネルギーに関する自家発電設備の設置率	